

外部機器との接続



DM-ER3021J 放送設備連動版

ホームページには、「緊急地震速報」及び「デジタルもぐら」に関する最新情報が掲載されています。

緊急地震速報のリーディングカンパニー
株式会社 J コーポレーション
総合窓口 0742-53-7833



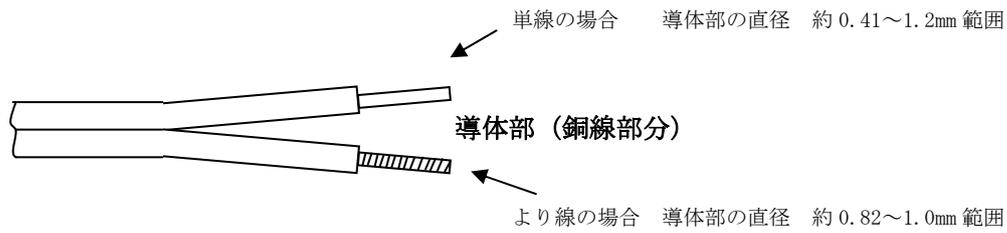
本社 三重県津市住吉町11-13 TEL059-223-7774

目次

デジタルもぐらとスピーカー接続する	2
デジタルもぐらと放送設備の接続(緊急地震速報のみ起動)	3
デジタルもぐらと放送設備の接続(津波警報、東海地震警戒宣言のみ起動)	4
デジタルもぐらと放送設備の接続(緊急地震速報、津波警報、東海地震警戒宣言のみ起動)	5
デジタルもぐらと放送設備の接続 応用例	6

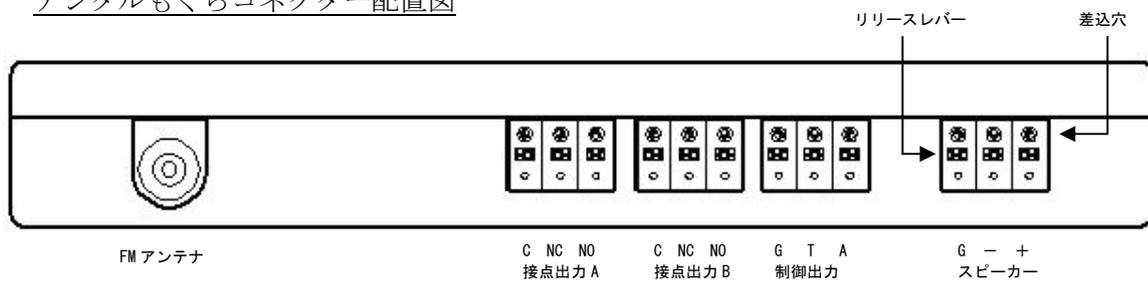
デジタルもぐらとスピーカー接続する

①接続に使う線を用意する（より線、単線どちらでも OK です）



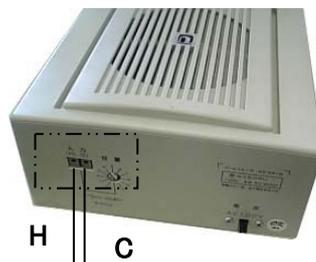
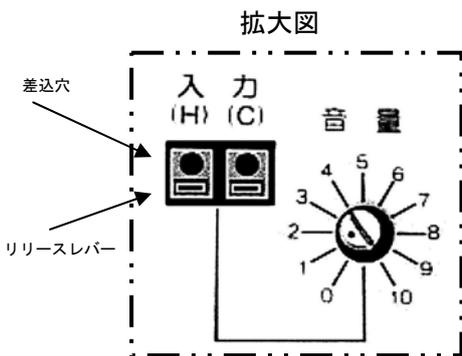
②デジタルもぐらのスピーカーコネクタのリリースレバーを押しながら差込穴にスピーカー線を挿入してください
* 外すときもリリースレバーを押しながら外してください

デジタルもぐらコネクター配置図



③スピーカーのリリースレバーを押しながら差込穴にスピーカー線を挿入してください
(H ⇒ +に接続 , C ⇒ Gに接続)

* 外すときもリリースレバーを押しながら外してください



CとGを接続

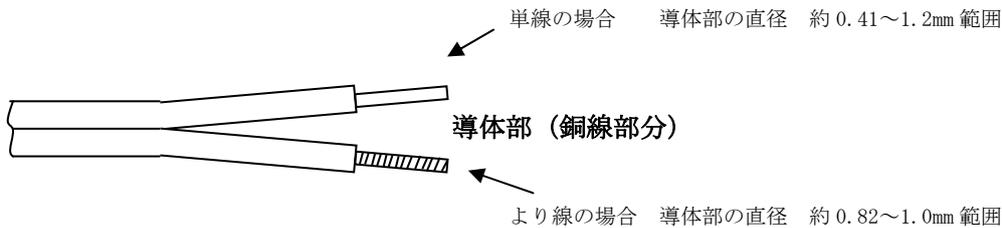
Hと+を接続

④スピーカーの音量を徐々に大きくして音量を調整してください。

デジタルもぐらと放送設備の接続（緊急地震速報のみ起動）

本ページの設定では緊急警報放送では放送起動しません

①接続に使う線を用意する（より線、単線どちらでも OK です）



②放送設備（接続先）の接点容量を確認してデジタルもぐら接点容量を超えていないことを確認する

デジタルもぐら接点容量	接点出力 A	30V 500mA
	接点出力 B	30V 500mA
	制御出力	24V 200mA

これ以上の電圧、電流が接点に流れるとデジタルもぐらは故障します。また、制御出力には保護回路がついていないので十分注意してご使用ください。（容量を超えている場合はリレー回路などで対応してください）

③放送設備（接続先）の音声入力が入力できるか確認する

デジタルもぐら音声出力 モノラル 0dBm/600Ω 不平衡（微調整可能です）

④デジタルもぐらの接点出力 B (C、NO) のリリースレバーを押しながら差込穴に放送起動用の線を挿入してください

* 外すときもリリースレバーを押しながら外してください

⑤デジタルもぐらのスピーカーコネクタのリリースレバーを押しながら差込穴にスピーカー線を挿入してください

* 外すときもリリースレバーを押しながら外してください

⑥放送設備と接続する（デジタルもぐらディップスイッチは出荷時の設定）

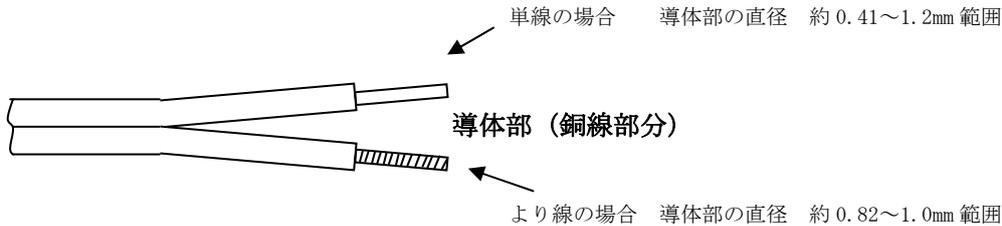
動作：緊急地震速報を受ける ⇒ デジタルもぐらが起動 ⇒ 接点出力 ON + 音声出力 ⇒ 一斉放送



デジタルもぐらと放送設備の接続（津波警報、東海地震警戒宣言のみ起動）

本ページの設定では緊急地震速報では放送起動しません

①接続に使う線を用意する（より線、単線どちらでも OK です）



②放送設備(接続先)の接点容量を確認してデジタルもぐら接点容量を超えていないことを確認する

デジタルもぐら接点容量	接点出力 A	30V 500mA
	接点出力 B	30V 500mA
	制御出力	24V 200mA

これ以上の電圧、電流が接点に流れるとデジタルもぐらは故障します。また、制御出力には保護回路がついていないので十分注意してご使用ください。(容量を超えている場合はリレー回路などで対応してください)

③放送設備(接続先)の音声入力が入力できるか確認する

デジタルもぐら音声出力 モノラル 0dBm/600Ω 不平衡（微調整可能です）

④デジタルもぐらの接点出力 A (C、NO) のリリースレバーを押しながら差込穴に放送起動用の線を挿入してください

* 外すときもリリースレバーを押しながら外してください

⑤デジタルもぐらのスピーカーコネクタのリリースレバーを押しながら差込穴にスピーカー線を挿入してください

* 外すときもリリースレバーを押しながら外してください

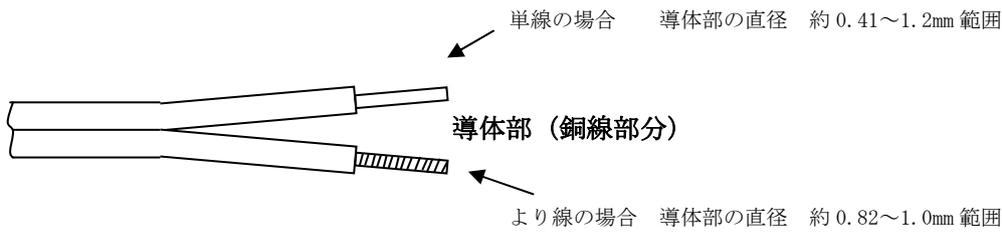
⑥放送設備と接続する(デジタルもぐらディップスイッチは出荷時の設定)

動作：津波警報、警戒宣言を受ける⇒デジタルもぐらが起動⇒接点出力 ON + 音声出力 ⇒ 一斉放送



デジタルもぐらと放送設備の接続（緊急地震速報、津波警報、東海地震警戒宣言で起動）

①接続に使う線を用意する（より線、単線どちらでも OK です）



②放送設備(接続先)の接点容量を確認してデジタルもぐら接点容量を超えていないことを確認する

デジタルもぐら接点容量	接点出力 A	30V 500mA
	接点出力 B	30V 500mA
	制御出力	24V 200mA

これ以上の電圧、電流が接点に流れるとデジタルもぐらは故障します。また、制御出力には保護回路がついていないので十分注意してご使用ください。(容量を超えている場合はリレー回路などで対応してください)

③放送設備(接続先)の音声入力が入力できるか確認する

デジタルもぐら音声出力 モノラル 0dBm/600Ω 不平衡（微調整可能です）

④デジタルもぐらの接点出力 A (C、NO) のリリースレバーを押しながら差込穴に放送起動用の線を挿入してください

* 外すときもリリースレバーを押しながら外してください

⑤デジタルもぐらのスピーカーコネクタのリリースレバーを押しながら差込穴にスピーカー線を挿入してください

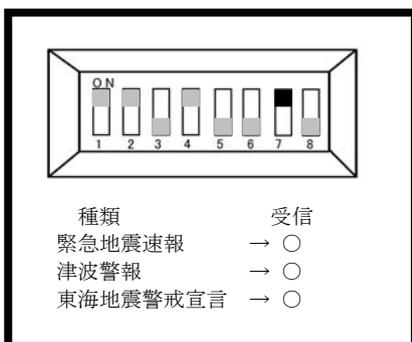
* 外すときもリリースレバーを押しながら外してください

⑥デジタルもぐらディップスイッチは出荷時の設定を変える（7番を ON にする）

⑦放送設備と接続する

動作：緊急地震速報、津波警報、警戒宣言を受ける ⇒ デジタルもぐらが起動 ⇒
⇒接点出力 ON+ 音声出力 ⇒ 一斉放送

出荷時の設定から変更する



デジタルもぐらと放送設備の接続 応用例

アナウンスマシンでオリジナル音声を流す場合（デジタルもぐらディップスイッチは出荷時の設定）

- ①アナウンスマシンにオリジナル音声を入力する
- ②アナウンスマシンに登録した音声とデジタルもぐらからの接点信号を間違いないように接続する
 接点出力 A(C,NO)⇒津波警報、東海警戒宣言 で ON になる
 接点出力 B(C,NO)⇒緊急地震速報 で ON になる
 * デジタルもぐらから津波警報として出力している内容をアナウンスマシンで緊急地震速報として流さないように注意！！
- ③放送設備（接続先）の接点容量を確認してアナウンスマシンの接点容量を超えていないことを確認の上、接続する



本書について

NO.	発行年月日	版数	記載変更内容
1	2010年3月3日	初版	初版発行
2	2011年6月1日	第2版	スピーカー内蔵版
3	2012年4月1日	第3版	型番の変更
4	2014年4月1日	第4版	社名欄修正
5	2014年6月8日	第5版	デザインの変更

総発売元

緊急地震速報のリーディングカンパニー
 株式会社 **J** コーポレーション
総合窓口 0742-53-7833



本社 三重県津市住吉町 11-13 TEL059-223-7774

製造元 日本カスタム 株式会社 <http://www.kyastem.co.jp/>